

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

| | |
|------|--|
| 研究課題 | グローバルな視野を育成する教員養成プログラムとその運営他のあり方に関する開発研究 |
|------|--|

研究代表者

| | | |
|------------|--------------------------|----------|
| 氏名 岩田康之 | 所属 教員養成カリキュラム開発研究センター | 職名 教授 |
|------------|--------------------------|----------|

研究分担者

| | | |
|------------|--------------------|----------|
| 氏名 筒石賢昭 | 所属 芸術スポーツ科学系 | 職名 教授 |
| 三石初雄 | 教員養成カリキュラム開発研究センター | 教授 |
| 前原健二 | 教員養成カリキュラム開発研究センター | 准教授 |
| 下田 誠 | 国際戦略推進本部 | 准教授 |

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

- ①. 教員養成プログラムにおける「グローバル化」の状況について、全国の課程認定を得ている大学(588校)の国際交流担当者を対象とした調査を行った〔2013年9月～11月、回答数119、回収率20%〕。回答を分析する中で判明したのは、(1)各大学では、「国際化」「グローバル化」の取り組みと、教員養成教育の充実にはそれぞれ取り組んでいるが、相互の連関は必ずしも密接ではなく、教員養成のプログラムの中でグローバル化を意識したものは全体的に少ないこと、(2)その、少ない取り組みを通覧すると、「英語圏への留学」によって語学の習得に重きを置いた力量形成を企図したものと、「アジアへの短期スタディツアー」を中心として教育現場との関わりに重きを置いたものに大別される、という傾向が読み取れること、(3)また、「グローバル化」を単に「海外留学」とだけ捉えずに、国内の異文化体験(インターナショナルスクール等との交流など)を組み込んでいる例が見られること、などであった。
- ②. 上記の調査結果をまとめることと並行して、全国の大学で「グローバル化」を睨んで教師教育実践を行っている方々を主な対象としたワークショップ「教師教育とグローバリゼーション」を開催した〔2013年11月23日、東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター会議室にて開催。参加者約20名〕。このワークショップでは、上記の全国調査の概要の報告に続いて参加者それぞれの「グローバル化」を見据えての実践報告、および意見交換を行った。主な論点としては、海外留学(短期スタディツアー等)の実施運営企画、カリキュラム上の位置づけ(単位化の有無、科目としての設定等)、学生の費用負担、留学の期間、そして昨今の教員養成教育の政策的要請と学生気質(学校現場での「実践性」が求められ、学生たちもあまり外に出たがらない)等があった。
- ③. これらの知見を基に、本学の「教師論演習」(岩田康之教授担当)の中で香港へのスタディツアーを企画し、実施した〔2014年2月9日～16日〕。
- ④. 以上を踏まえ、報告書冊子の編集を行った。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

上掲①の調査結果、および②のワークショップの報告、関連資料を含めた冊子体の報告書『教師教育とグローバルイゼーション』の編集・発行を行い、調査協力者やワークショップ参加者等に還元している。また、上記①②については、本センターのウェブサイトで公開している。